

## 年頭のあいさつ

理事長 久喜邦康

(1月4日 於 福祉女性会館 談)

新年あけましておめでとうございませう。旧年中はシルバー人材センターの役員及び職員におかれましては、様々な形で努力していただき成果を得て、新たな年がスタートしました。

先程、市の職員に対して昨年は、市役所、市民会館、新火葬場、水道広域化等、様々な事業の土台を造った年であり、本年はその土台の上で確実に成果が出せる飛躍を目指そうと訓示したところでございます。

市の運営にとりまして、人口減、高齢化対策は避けることができない課題であります。

これをシルバー人材センターに充てはめてみますと、まさに人口減が進んでくる一方で、相対的に増えてくる元気な高齢者の活力を活かして、地域を発展させていこうと考えています。高齢者の大いなるやる気や思いを市の発展に繋げられるような運営をしていきたいと考えていま

す。それとともに、高齢者を含め市民一体となつて、ともに共生する、支え合っている、喜びを分かち合っている地域活動が達成できればと思っております。

一方、国の交付税が毎年1億5千万円減る厳しい状況で、シルバー人材センターに限らず、どの事業に対しても、これまで同様の補助金支給の財政上の余裕はないことも現実であります。私としては、市政全般に「身を切る政策」を掲げており、そこから、「価値ある政策」そしてまた、それらとともに、地域に「住み続けられる政策」という3つの政策を大きな柱として市政を推進してまいります。

会員の皆様にもこの主旨をご理解いただき、シルバー人材センターが地域の幸せを感じられるような運営ができるよう私を含めて頑張っていきたいと思います。

また、私達は健康でなければなりません。そこで皆様に提案があります。今年から自分の体にとつて、何かいいことを始めてみようということ。ある人はタバコをやめよう、塩気を減らそう、また、私を含めてお酒の好きな人は少し控えよう、走ろう、歩こうなど何か一つ始めてみませんかということ。健康で過ごせることが仕事にとつても、家族にとつても、人生を謳歌できる力になっていくのではないのでしょうか。皆様にとつて平成30年が素晴らしい一年であることをご祈念申し上げます。シルバー人材センターの発展を力を合わせて頑張っていきたいと思います。

### 配分金支払証明書について

毎年、発行している配分金支払証明書(平成29年1月から12月までに就業された方のみに発行)は後日改めて郵送いたします。

なお、証明書は再発行できませんので、取り扱いには十分に注意してください。

### 親睦会

### 第3回グラウンドゴルフ大会

日時 3月13日(火)  
午前9時

会場 荒川総合グラウンド  
現地集合

参加費 500円

申込締切 3月6日(火)

申込先 シルバー事務所

※貸しクラブ・ボール用意あり。

参加賞・弁当・お茶付きです。

### シルバーPR冊子を全戸配布

今年も秩父市広報2月号の配布時に合わせ、シルバー人材センターのPR冊子(A4版8ページ)を全戸に配布します。この冊子は市民の皆様により、シルバー人材センターの存在を知ってもらおうとともに、お気軽にご利用していただけるよう作成するものです。

### 新会員紹介

次の方々を新たに仲間になりました。よろしくお願ひします。(敬称略)

十一月

富田清子 串田米夫 杉山良子

池田勝彦 根岸吉高 根岸光子

西村孝代 中田ヒロ子 高田榮子

大久保和子 内田康夫

十二月

田端重夫 岩田隆夫 小林吉一

島田孝行 田口德行 嶋崎千代美

井相田久枝 三上宣彦

### 中期基本計画の目標⑥

3月に策定した同計画の内容についてシリーズで説明していきます。今回はその6回目です。

### テーマ 財政基盤の確立

センターの主な収入源は、会員会費、事務費収入、補助金収入、受託事業収入等になっていく。会費は、「会員である」ことに

よって生ずる経費や「会員として参加する」ことよって必要となる経費が基本であり、シルバー保険や会員向け文書等の伝達に要する費用にも充てられる。事務費収入は、受託事業や派遣事業の実績により増減するものであるが、将来的には事務費率の見直しも考えられる。

補助金収入は国、市からの補助金でありセンターの運営上欠かせないものとなっている。ここ数年は補助金としての運営費が減額の傾向にあるが、これに対して、派遣等の事業を推進することによって加算が見込めるため、派遣事業の拡大を図って行く。また、適正就業の観点から「請負」から「派遣」への変更が必要と思われる業務に対してスムーズな移行を推進する。「派遣」への移行が契約金増加に繋がるとともに、国の補助金算定の指標に大きく関わっており、財源の確保にも影響することを注視しなければならない。

一方、国の補助事業メニューは頻繁に変更する傾向があるため、状況に対応して補助金の拡大を目指すことができる柔軟な体制を整備する。

ファミリー・サポート・センター等の委託事業については、

センターの運営に欠かせないものとなっているため、引き続き事業の継続を図っていく。

### 新シリーズ

## 会員活躍ひろば



## ガイド班札所案内

平成30年のスタートに合わせ、今回から会員の活躍している様子をご紹介します。

新企画第一号はガイド班で活躍されている水野晴夫さんにインタビューしました。

Q ガイド班にいつ頃入会し、その理由をお聞かせください。

A 平成24年からの企画提案事業「シルバー観光ガイド」が開催され、3年間の研修に参加し、その研修を経てガイド班に入りました。

Q ガイドと言っても知識が必要だと思えますが、どのように知識を得ているのですか。

A 現役時代は全く知識がなく、生まれ育った秩父をあまりにも知らないで、3年間は無我夢中でした。その後は、座学、実施研修を含めて毎月第3金曜日の「ガイド班定例会」に参加し、日々精進しています。

Q 最近行ったガイドとそれとどんな工夫をされたか教えてください。

A 11月上旬に加須市のお客様に街なか案内、中旬に広島からのお客様に2泊3日で秩父札所案内をしました。街なか案内と札所案内は違いますが、「おもてなし」は同じなので、街なか案内の中でも、札所13番等の案内をします。少しでも、魅力ある街だと表現したいからです。いかに表現するかは案内人の腕にかかっていると思います。それは知識を伝えればよいというものではなく、最後は郷土愛かな。

Q 案内で特に留意していることは何ですか。また、今後の目標と抱負についてお聞かせください。

A お客様に質問されて「わかりません」は禁句だと思っています。ネタの薄さは案内人の薄さと考えていますので、ネタをいかに豊富にするか。また、人間は「見た目の印象」55%、「声の印象」38%、「話の内容」7%、そして人は相手を3秒で判断すると言われていますので、身だしなみにも気を付けています。やはり、目標はシルバー世代よりその上のプラチナとして輝きたいと思っています。

## 事務局長から

先日、全国シルバー事業協会から「会員増加に向けた取組事例集」という冊子が届きました。全国的に会員数は平成21年をピークに約7万4千人弱減少しているとのこと。当センターにおいても、ここ2年間で47人減少し、減少率は▲5・6%です。

当センターについても会員数の確保は国の補助金にも影響するため、中期基本計画でも5年間で5%増を掲げています。

この冊子によれば、事務局で行う取組のほか、会員が主体となった取組も示されています。これによると、「会員による入会勧誘」に全体の約7割のセンターが取り組み、その約2割が「特に効果があった」と回答しています。具体的事例として、会員による10人声掛け1人会員入会運動、配偶者や知人に呼びかける、会員のサークル活動に会員以外を誘い、入会を呼びかけるなどが紹介されています。新会員を2名以上入会させた会員に総会で表彰するなどユニークな取組事例も紹介されています。

これらを参考に、会員増を目指して、どんな工夫が必要か、事務局と会員が互いに協力して考えていきましょう。